

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
理気剤 行気剤 7		
かるがいはくはくしゅとう 栝楼薤白白酒湯	通陽散結・行気祛痰	栝楼仁 12g・薤白 12g・白酒適量 水煎し服用する。
金匱要略	<主治> 胸痺（胸陽不振、気滞痰阻） 胸痛があり甚だしいと背部に放散する、呼吸困難、喀痰、呼吸促迫、舌苔が白膩、脈が沈弦などを呈す。 <病機> 胸陽不振、気滞痰阻による胸痺である。 胸陽が不足して推動が低下すると、気の流通が傷害されて気滞が生じ、また津液の輸布が滞り凝聚して痰が発生し、痰が気機を阻滞するので、胸陽がより不振になる。胸部で気機が阻滞されるために胸痛、甚だしければ背部への放散痛が生じ、痰濁により肺気の肅降が失調するので呼吸困難、喀痰、呼吸促迫がみられる。舌苔が白膩、脈が沈弦は、痰阻気滞を表わす。 <方意> 胸中の陽気を宣通して痰濁、気滞を除く。 祛痰散結、寛胸理気の栝楼仁が主薬で、辛温通陽、行気止痛の薤白が補助し、白酒は通陽行気を強める。全体で胸陽を宣通し痰濁を除き気機を舒暢させて、胸痺を解消する。	
かるがいはくはんげとう 栝楼薤白半夏湯		栝楼仁 12g・薤白 9g・半夏 12g・白酒適量 水煎し服用する。 「栝楼薤白白酒湯 +半夏」に相当する。
金匱要略	平臥できず痛みが背部に放散するという様に、呼吸困難、疼痛がより強く、痰濁阻滯の程度が重い。それ故に、栝楼薤白白酒湯に、祛痰散結の半夏を加え、行気の薤白はやや減量している。	